

令和5年9月6日

話 題 事 項

令和5年9月5日

資 料 提 供 済

「和歌山製油所エリアの今後の方向性について 中間とりまとめ」の
公表について

令和4年1月、ENEOS（株）が本年10月における同社和歌山製油所の機能停止を発表したことを受け、和歌山県は、同社、経済産業省、海南市および有田市とともに「和歌山製油所の今後の在り方に関する検討会」を発足させ、和歌山製油所エリアの将来について、様々な議論、検討を重ねてまいりました。

このたび検討会の中間報告として、これまでの同検討会の議論を通じて具体化させた、和歌山製油所エリアの今後進むべき方向性や将来像を、別添のとおり取りまとめましたので、お知らせいたします。

《問い合わせ先》

産業技術政策課 担当：大原・中尾

電話：073-441-2354

企業振興課 担当：田端・魚井

電話：073-441-2757

和歌山製油所エリアの今後の方向性について 中間とりまとめ

2023年9月5日

和歌山製油所エリアの今後の在り方に関する検討会

(経済産業省(資源エネルギー庁・近畿経済産業局)、和歌山県、海南市、有田市、ENEOS株式会社)

1. ENEOS和歌山製油所について

- 和歌山製油所は、1941年の操業開始以来、80年以上の長きにわたり、立地地域と密接な関わりを持ち、地域経済や地域の雇用にとって重要な役割を果たしてきました。
- 一方、国内石油製品の需要減少や世界的に高まる脱炭素の機運等の様々な環境変化により、2023年10月をもって和歌山製油所はその機能を停止します。
- こうした中、本検討会では、和歌山製油所エリアが、今後も、魅力と活力ある地域であり続けるために、官民の垣根を越えて、アイデアを持ち寄り、議論・検討を重ねてきました。
- この結果、和歌山製油所エリアは石油基地からカーボンニュートラルを先導するGX*1モデル地区を目指す、**未来環境供給基地**として「**カーボンニュートラル社会の実現**」と「**地域経済への貢献**」を図るべく、新しい一歩を踏み出すこととしました。



*1 : GX (グリーントランスフォーメーション) :
化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動。

2. 今後進むべき方向性

カーボンニュートラル社会の実現

2015年パリ協定【日本の排出削減目標（2021年4月更新）】

- ・カーボンニュートラルの実現に向けて、「2050年温室効果ガス実質ゼロ」、「2030年温室効果ガス46%削減、さらに50%の高みを目指す」

第6次エネルギー基本計画（閣議決定） 令和3年10月

【2050年カーボンニュートラル実現を見据え、2030年に向けた対応】

- ・再エネは主力電源として最優先に最大限の導入に取り組み、水素は社会実装を進め、原子力は、国民の信頼と安全性の確保を前提に、必要な規模を持続的に活用

エネルギー供給構造高度化法次期告示（経産省） 令和5年予定

- ・S A F * 2の2030年の供給目標量を需要側のニーズを踏まえ、少なくとも航空燃料消費量の10%（171万kL相当）に設定

GX実現に向けた基本方針（閣議決定） 令和5年2月

- ・GX実現を通して、将来世代を含む全ての国民が希望を持って暮らせる社会を実現すべく、今後10年を見据えた取組の方針を取りまとめ
→ 令和5年5月にGX推進法が成立

わかやま水素社会推進ビジョン 令和1年6月

【水素需要の拡大と、安価な水素供給体制の構築の同時実現】

- ・燃料電池自動車等の普及拡大、CO₂フリー水素サプライチェーンの構築

わかやま資源自律経済ビジョン 令和5年9月予定

- ・地域の再生資源を活かした産業創出、資源循環ネットワークの構築

地域経済への貢献

和歌山県の方針 令和5年2月

和歌山県議会定例会

- ・全国に先駆けて、カーボンニュートラル実現に向けた地域の脱炭素事業転換のモデル、脱炭素社会先進県となることを目指す
- ・企業誘致には、投資をしたい、しようと思う企業に魅力を感じてもらえるように全力を尽くす

海南市の方針 令和4年2月

海南市議会定例会

- ・雇用を維持しつつ、地域経済の発展、地域振興につながる方策について、和歌山県、有田市と連携して取り組む

有田市基本の方針 令和4年6月

- ・地域の雇用創出につながる取組を進める
- ・カーボンニュートラル社会を見据えた、未来へつながる新たなチャレンジが行われる地域であり続ける

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



11 住み続けられる
まちづくりを



* 2 SAF (Sustainable aviation fuel) : 持続可能な航空燃料（廃油からの再生航空燃料など）のこと。CO₂削減に貢献。

3. グランドデザイン（コンセプト）

解決すべき課題とキーワード

カーボンニュートラル社会の実現

GX、SAF、クリーンエネルギー

地域経済への貢献

企業誘致、新規産業



未来環境供給基地

～石油基地からカーボンニュートラルを先導するGXモデル地区へ～

我が国の産業・エネルギー構造が、化石燃料からカーボンニュートラル実現に向けた次世代エネルギーへの転換を図るなか、GXを体現するモデル地区として次世代エネルギーや製品等の供給基地となることを目指します。

GXの推進

GXを推進し、カーボンニュートラルの実現に貢献する環境先進エリアを目指します。

次世代エネルギーの供給

国内におけるSAFの供給拠点となるよう取組を進めます。また、再生可能エネルギーのほか、様々なクリーンエネルギーの供給を目指します。

新規産業の創出

GXの推進を担い、脱炭素化に向けた地域との協働に共感する企業を誘致し、地域のさらなる成長につなげます。

4. グランドデザイン (マップ)

未来環境供給基地
～石油基地からカーボンニュートラル
を先導するGXモデル地区へ～

<次世代エネルギー創造ゾーン>

持続可能な航空燃料 (SAF) の製造や再生可能エネルギーなど、次世代のエネルギーを創造し、供給するゾーン

<新産業創出ゾーン>

GX、カーボンニュートラルの実現に貢献する企業などを誘致し、石油に代わる新たな産業を創出するゾーン

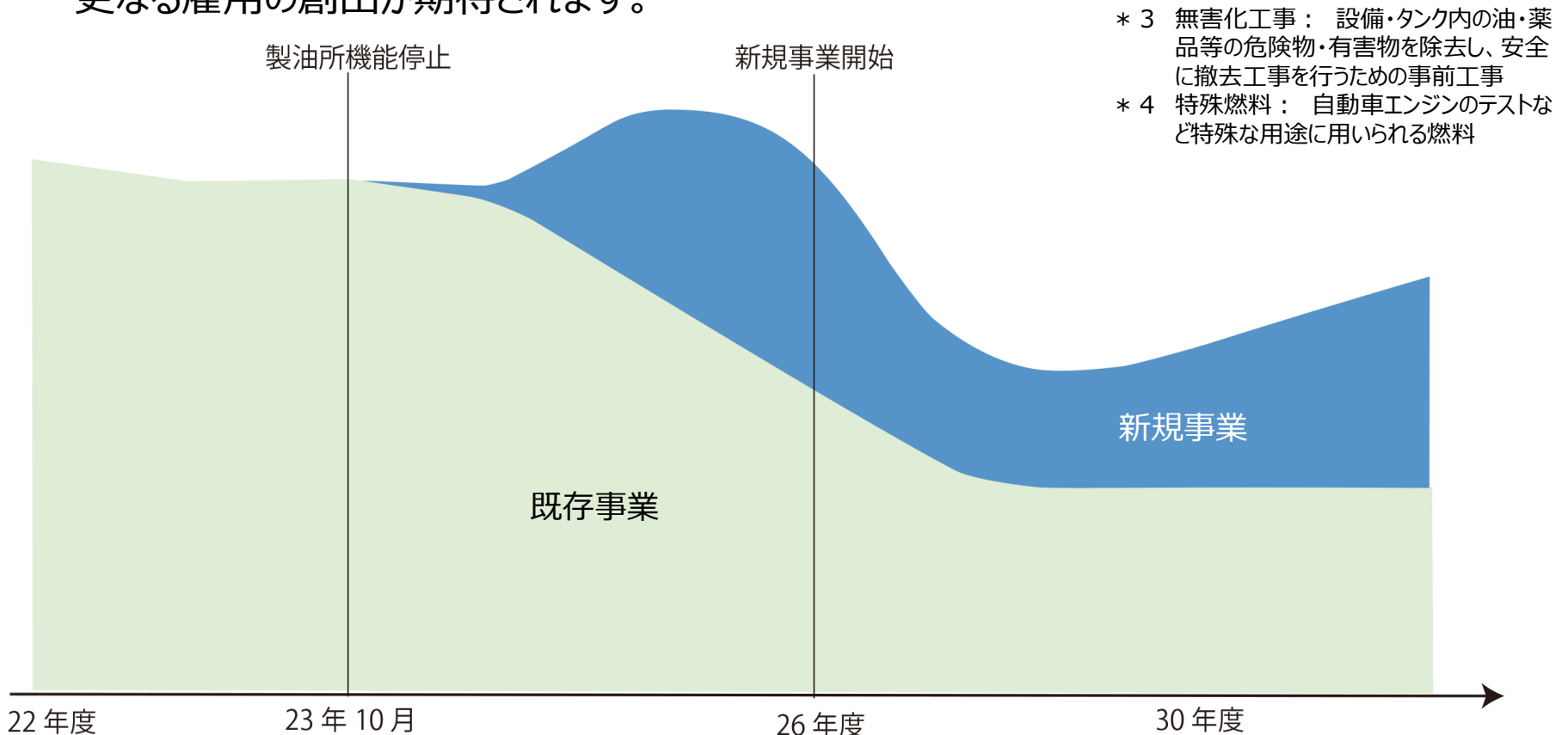
太陽光発電
実施中



※当該資料の内容は現時点のものであり、検討の進捗によって変更する場合があります。

5. 雇用規模イメージ

- 製油所機能が停止する10月以降も無害化工事*³等や特殊燃料*⁴の製造・出荷等において、一定の雇用規模が維持される見込みです。
- 加えて、SAF事業が実現すれば、建設関連の工事、事業開始後のオペレーション等で雇用が生じる見込みです。
- また、現時点で未定ですが、将来的にSAF以外の新規事業や企業誘致が実現すれば更なる雇用の創出が期待されます。



※このグラフは雇用規模のイメージを示したものであり、具体的な人数を積算したものではありません。

6. 今後の取り組みについて

ランドデザインに沿った土地活用と企業誘致を進め、和歌山製油所エリアを活力と魅力ある地域に発展させてゆくために、県、市、ENEOSは、今後も、次の取り組みを協力して実施します。国には、国の施策とも整合した地域のGX事業転換の実現に向けて協力・後押しを求めています。

1. SAFを軸とした新規事業への取り組み

- ・和歌山製油所エリアが、日本有数のSAF製造拠点となるよう、ENEOSはSAFの事業化（2026年を目標）への取り組みを進めます。
- ・また、他の次世代エネルギーについても、ENEOSは和歌山製油所エリアでの事業化可能性を含めて引き続き検討します。
- ・県、市は、これらの事業化実現に向けて、必要な協力は惜しまず提供します。

2. 企業誘致の促進

- ・和歌山製油所エリアが、未来環境供給基地として発展するために、GX、カーボンニュートラルに関連する有力な産業、企業を誘致するべく、県、市、ENEOSは互いに協力して誘致活動を進めます。また、県、市は、進出希望企業のニーズを捉えてインフラ整備や優遇制度を検討し、進出を後押しします。

以上の取り組みを通じ、新規事業と企業誘致を着実に進めるとともに、本年10月の製油所機能停止後の無害化工事を安全に進めることで、カーボンニュートラル社会の実現と地域経済の発展に貢献し、雇用の維持・創出にも繋げることができるよう、引き続き、県、市、ENEOSは互いに協力し、鋭意取り組んで参ります。